

立谷沢川流域直轄砂防の原点

工事を支えた方々の記録

現在の国土交通省 新庄河川事務所のルーツは、昭和12年、山形県東田川郡立谷沢村（現庄内町）の立谷沢川にあります。この川での砂防工事を行うために置かれた、内務省新潟土木出張所立谷沢砂防工場が事務所の遠い前身です。

立谷沢川の支川・濁沢川で昭和12年に始まった濁沢第1砂防堰堤の工事が、直轄砂防工事の起源となっています。現在のような建設機械もなく、ほとんどの作業が人力で行われていました。こうした人々の努力により、濁沢第1砂防堰堤が昭和14年に完成、昭和27年に六淵砂防堰堤、昭和28年には瀬場砂防堰堤が完成し、今日に至るまで土砂・洪水氾濫被害から立谷沢川流域の人々の生活と命を守り続けています。



昭和13年頃の濁沢第1砂防堰堤の工事の様子



昭和13年濁沢第1砂防堰堤の様子(立谷沢川支流濁沢川)



昭和15年頃の濁沢第2砂防堰堤の工事の様子



昭和16年4月の立谷沢砂防工場



昭和17年頃の濁沢第3砂防堰堤の工事の様子



昭和24年頃の六淵砂防堰堤の工事の様子